



住み慣れた地域で
安心して暮らし続けるために

～永源寺の地域まるごとケア～

東近江市永源寺診療所

花戸 貴司

「健康」だって感じるのは、
どんな時ですか？

医学の歴史を振り返る

起源	19世紀後半
寿命	50歳まで
原因	外的・母子
疾病	単一
経緯	単一エピソード
目標	治癒・救命
目的	治す医療
場所	病院
特徴	施設医療

参考: 長谷川敏彦「地域連携の基礎理論としてのケアサイクル」高橋紘士・武藤正樹編「地域連携論」

つまり、、

あらゆる疾病の原因を探り、いかに疾病を制圧するかを追求することが、医療の役割でした。

これからも医療の高度化・専門化はさらに進むでしょう。

言い換えれば・・・

医療がすべての健康問題を解決するように期待されてきた時代。

健康問題を解決するためには、
「医療（病院）が中心の時代」でした。

医学の歴史を振り返る

起源	19世紀後半	21世紀
寿命	50歳まで	85歳以上
原因	外的・母子	老化
疾病	単一	複数
経緯	単一エピソード	継続発症
目標	治癒・救命	機能改善・人生支援
目的	治す医療	支える医療
場所	病院	地域
特徴	施設医療	ケアサイクル

医学は進歩したのに

急性・慢性という「病」だけではなく、
高齢化により「老い」という病態加わった。

医学だけで、「健康」を得られる or 解決で
きる状態ばかりでは、なくなった。

医学だけで「健康」を得られる
(解決できる) 時代ではなくなった。

どうすればいいのか？



これからの医療 これからの地域

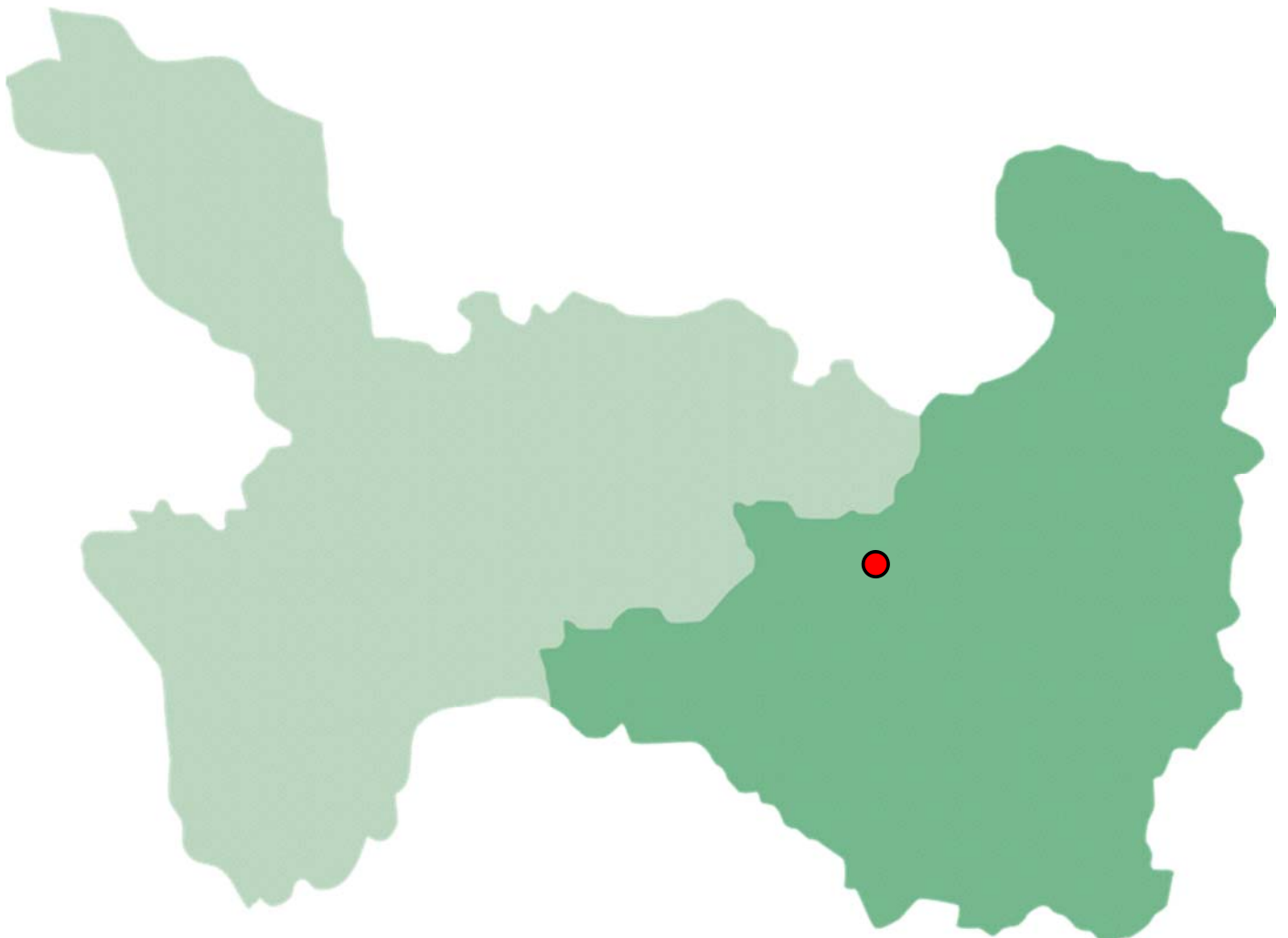
というものをお話します。

はよう、まいらしてほしいわ

東近江市永源寺診療所



- 三重県と接する滋賀県南東部、東近江市永源寺地域（旧永源寺町）にある公立国保診療所
- 昭和59年に町立診療所として開設される。
- 平成2年より東部出張診療所も開設される。
- 対象人口は5400人、高齢化率は34%
- 医師1人、看護師5人 無床診療所
- 平成12年4月より現所長
- 平成20年4月より指定管理（民営化）













皆さん笑顔で生活されています。

誰かが誰かを支えています

一人暮らしであっても、
認知症であっても、
障がいを抱えておられても、
皆さん笑顔で生活されています。

当院が担当している在宅患者さん

在宅患者さんは、80人

年齢は、4歳から103歳

何でも診ます。（看取ります）

在宅看取りは、25～36人／年

（地域の40～50%）

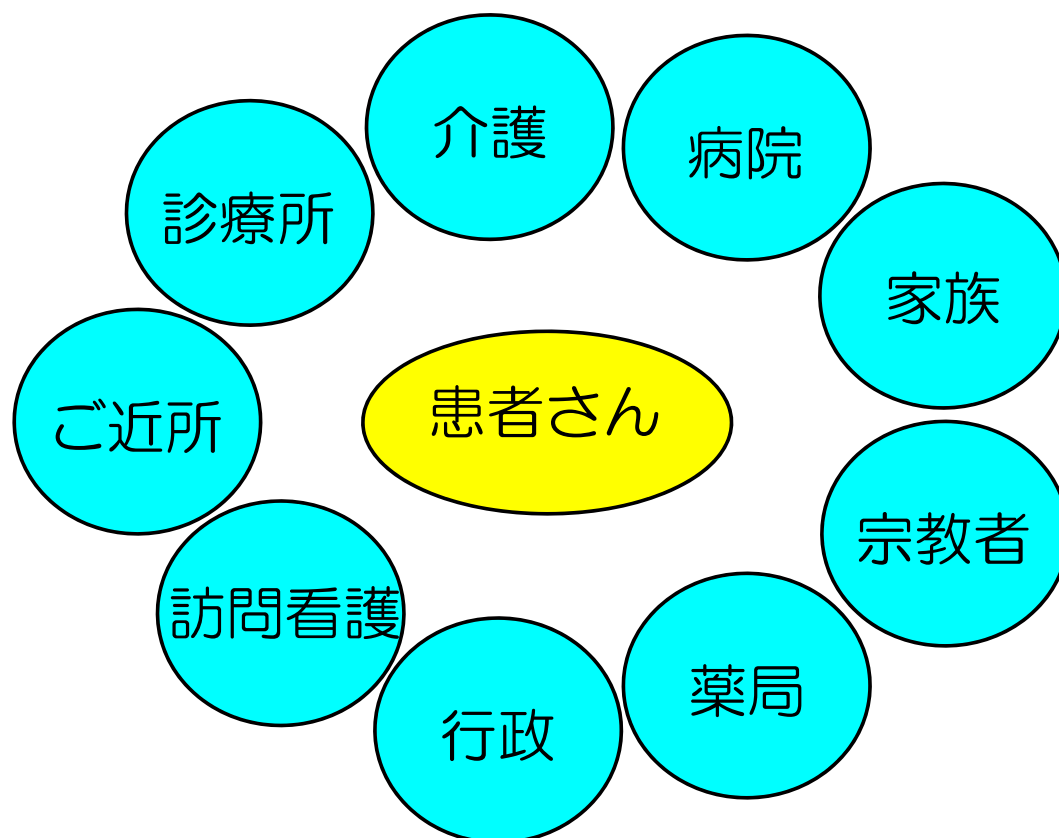
在宅医療は、医師一人ではできません

寝たきりや認知症であっても、また老夫婦、一人暮らしであっても在宅で生活することは可能です。

しかし、そのためには医師、看護師、薬剤師、リハビリスタッフ、ホームヘルパー、デイサービススタッフ、ケアマネジャー、行政、家族、ご近所の方々などの
多職種連携が必要です。



患者さんの側からみた在宅医療



患者さんが本当に望んでいることは？

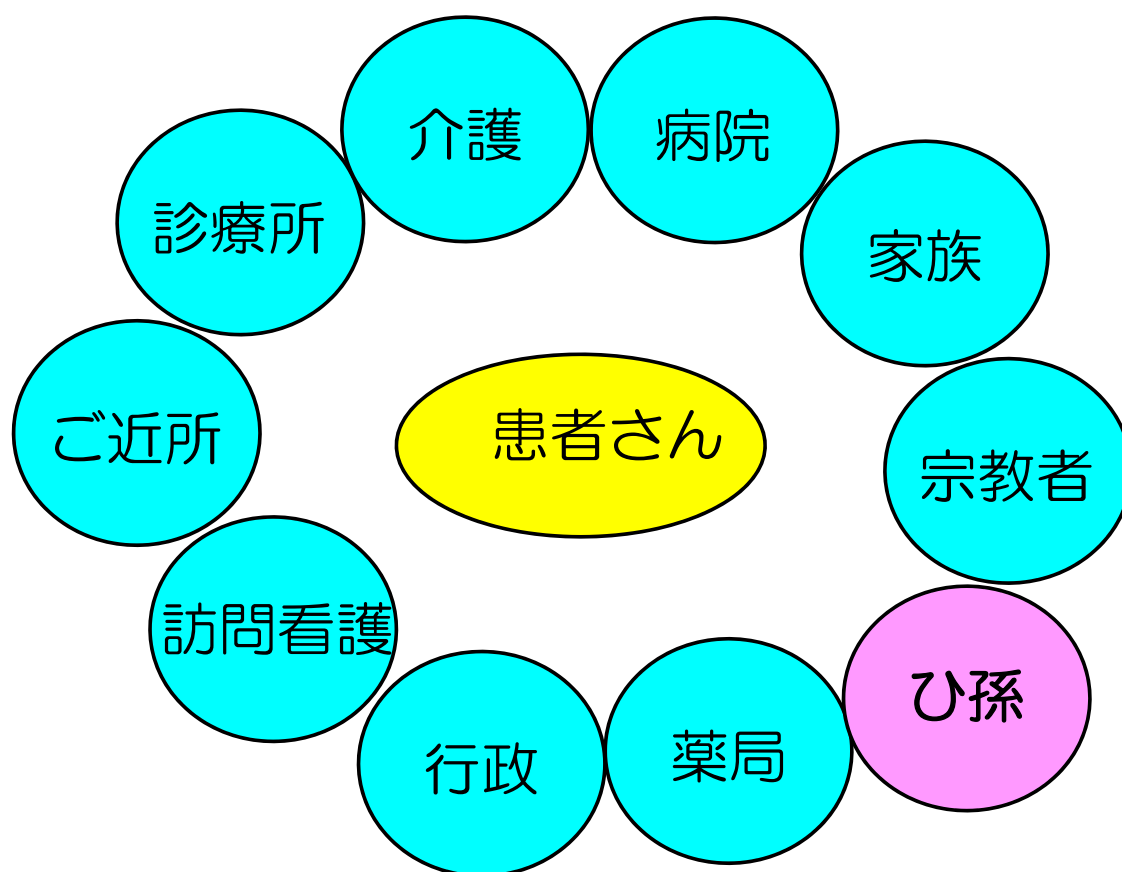
病気に（病気が見つかったときに、
病気が、元気になる）元気のものは
誰しものことです。

- 「病気と闘うこと」と「元気に生活すること」とは同じですか？
- 何のために病院に行くのですか？
- 何のために家に帰ってくるのですか？

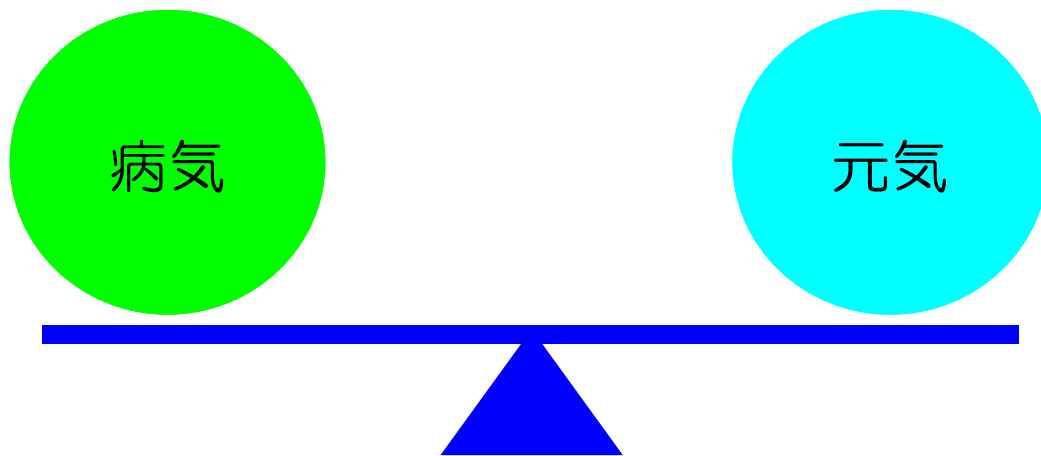




患者さんの側からみた在宅医療



「先生、はようまいらしてほしいわ」



「年老いても、自分らしく過ごしたい」



看取りだけではありません

在宅の患者さんの多くは
認知症、脳卒中後遺症、がん
難病、呼吸器疾患など様々

病院から地域へ

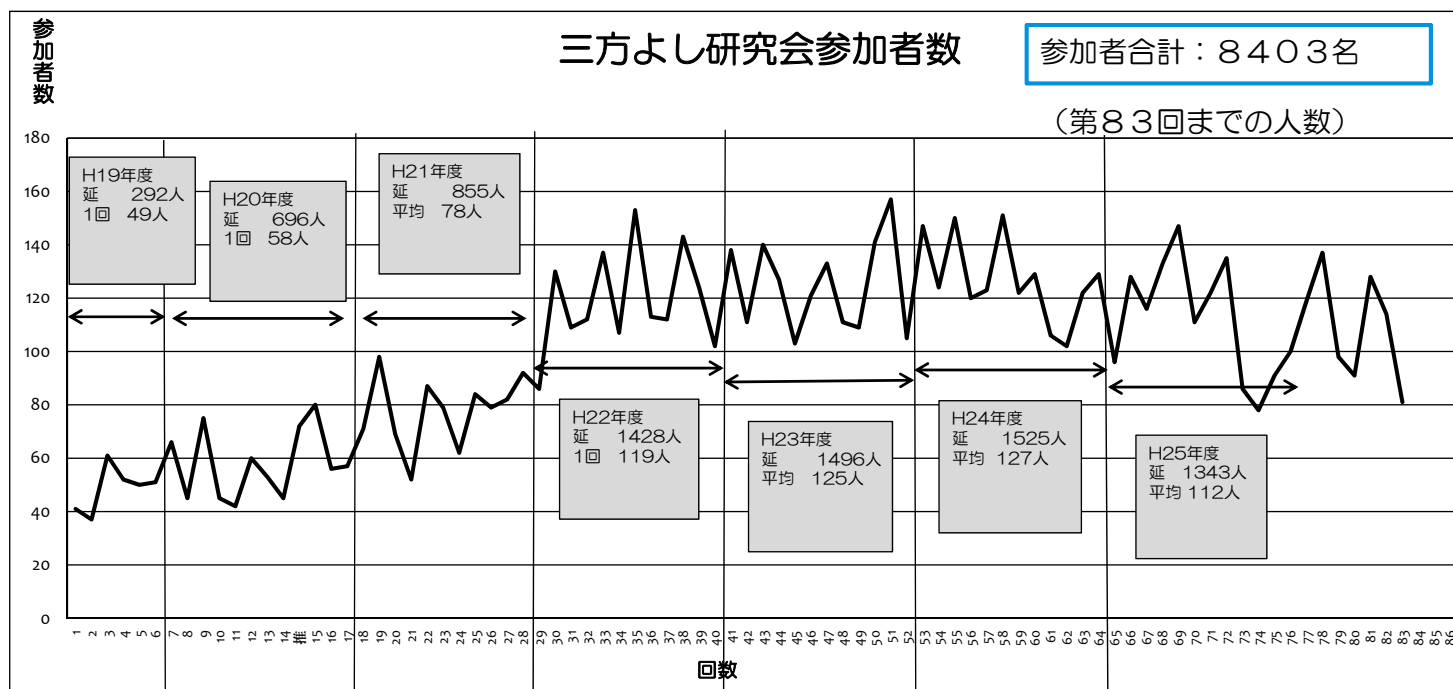
起源	19世紀後半	21世紀
寿命	50歳まで	85歳以上
原因	外的・母子	老化
疾病	単一	複数
経緯	単一エピソード	継続発症
目標	治癒・救命	機能改善・人生支援
目的	治す医療	支える医療
場所	病院	地域
特徴	施設医療	ケアサイクル

地域の連携は「三方よし」

地域の多職種が集まり、
顔の見える関係づくり
「患者よし、機関よし、地域よし」

三方よし研究会



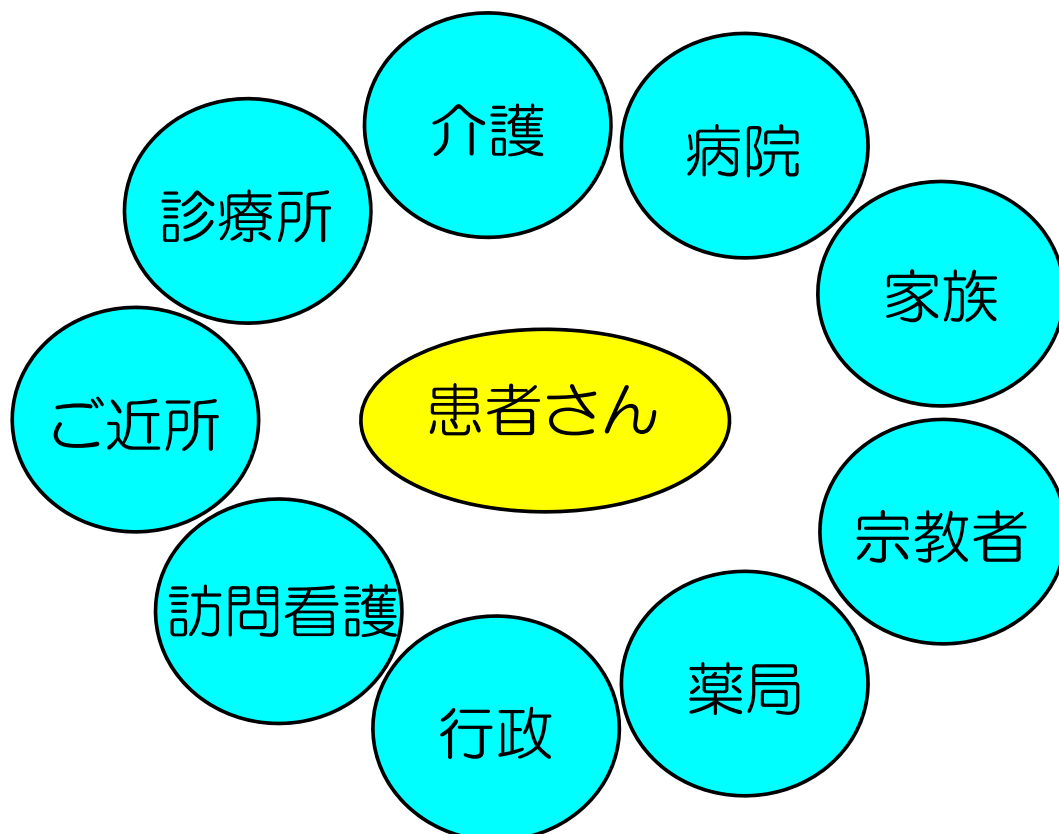


連携パスは、現場をつなぐ道具



しかし・・・

連携パスの中心は「患者さん」





三方よし研究会

患者よし、機関よし、地域よし

職種は違うが、
皆、同じ方向を向いている
素晴らしい仲間です。



あふれる熱意と志

京都新聞大賞

7人6団体受賞

平成27年度京都新聞大賞が文化・学術、教育・社会、スポーツ、福祉の各分野で功績のあった7人、6団体に贈られる。贈呈式は26日午前10時から、京都市中京区の京都新聞文化ホールで選考委員らを招いて行われる。受賞者の横顔と各賞推薦の言葉を紹介する。

東近江市永源寺診療所院長

花戸 貴司さん



「最期まで笑顔」に尽力

医療機関が少なく過疎高齢化が進む東近江市永源寺地区で、地域に根差した医療活動が続いている。診療中も白髪は増えない。「地域の人と近い立場でいたい」と

平均を大幅に回った。「最期まで笑顔でいられ、子どもたちにも生きてきた姿や命の大切さを伝えたい」と意気込みを語った。学校の教育や、研修医の受け入れなどにも取り組む。「病院ではできないことも、地域ならではの強みがある」と信じている。

(東近江市、45歳)

教育社会賞

推薦のことは

滋賀県教育委員長 藤田義嗣氏

花戸貴司さんは、地方までいき届かない医療に目を向け、診療だけでなく医師の養成にも尽力されている。医療費が国家的問題になる中、同様の課題を抱える他の地域の模範になる。

滋賀県文化振興事業団は、埋もれてしまう可能性がある地域の文化や歴史に光を当てた。文化は観光振興に

つながり、地方創生の時代に、地域の力をつなぐ重要な役割を果たしている。

障害者芸術推進研究機構は、障害のあるなしにかかわらず、芸術分野で才能を開花させることができるチャンスを与えている。インクルーシブ社会の実現に向けた希望のような活動だ。

花戸さん「やぶ医者大賞」

「やぶ医者」は下手な医者ではなく、ある名医が現在の兵庫県養父市にひっそりと暮らしたことに由来する。そんな伝えに基づき、「名医の郷」を掲げる同市が創設した「やぶ医者大賞」。第3回の今年、東近江市にある永源寺診療所の花戸貴司さん(46)が県内から初めて選ばれた。

兵庫・養父市創設

花戸医師は米原市出身で、2000年に永源寺地域の診療所に赴任。「地域まるごとケア」を掲げ、介護の専門家や薬剤師、ご近所の住民と連携した在宅医療を進める。

地域密着の活動 評価

訪問診療に積極的に取り組み、現在は約80人の患者を往診。永源寺地域では在宅患者のほぼ半数が自宅で看取られるようになっていくという。朝日新聞滋賀版で診療所での日々をつづるコラム「永源寺日記」を執筆している。

やぶ医者大賞はへき地医療への貢献にスポットを当てたもの。今回は医師会などの推薦により滋賀、福井、徳島、岡山の4県の5人が応募し、2人が選ばれた。花戸医師は選考理由で「医療だけでなく、少年野球のチームドクターなど地域密着の活動をしている」などと評価された。

花戸医師は「受賞を励みに、さらに地域医療の充実に取り組んでいきたい」と話す。薬剤師と連携した服薬の訪問指導などが評価されて受賞した徳島県美馬市の藤原真治・国民健康保険木屋平診療所長とともに、11月26日に養父市で表彰される。

(青田貴光)



「やぶ医者大賞」に決まった花戸貴司医師。積極的な訪問診療などが評価された。

多職種で考えていると・・・

病気だけ診ていても
解決できない問題が
たくさんあることに気
づきました。

地域の多職種連携チーム

三方よし Jr.

「チーム永源寺」



地域社会には様々な資源があります

自助

- ・ 自立支援、セルフケア、社会参加

互助

- ・ ご近所、ボランティア、家族

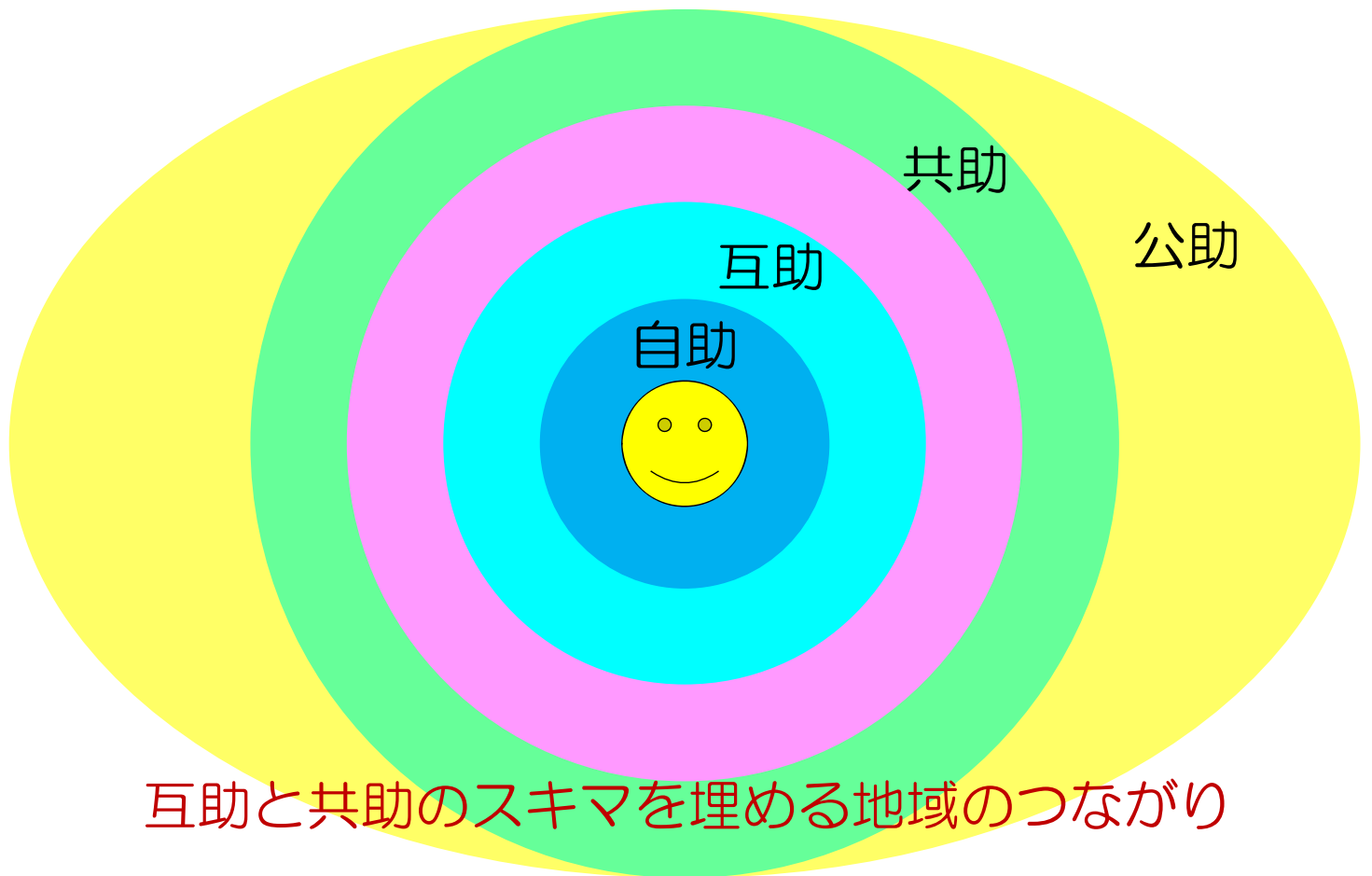
共助

- ・ 医療保険、介護保険、年金

公助

- ・ 生活保護、低所得者への支援

生活を支えるために

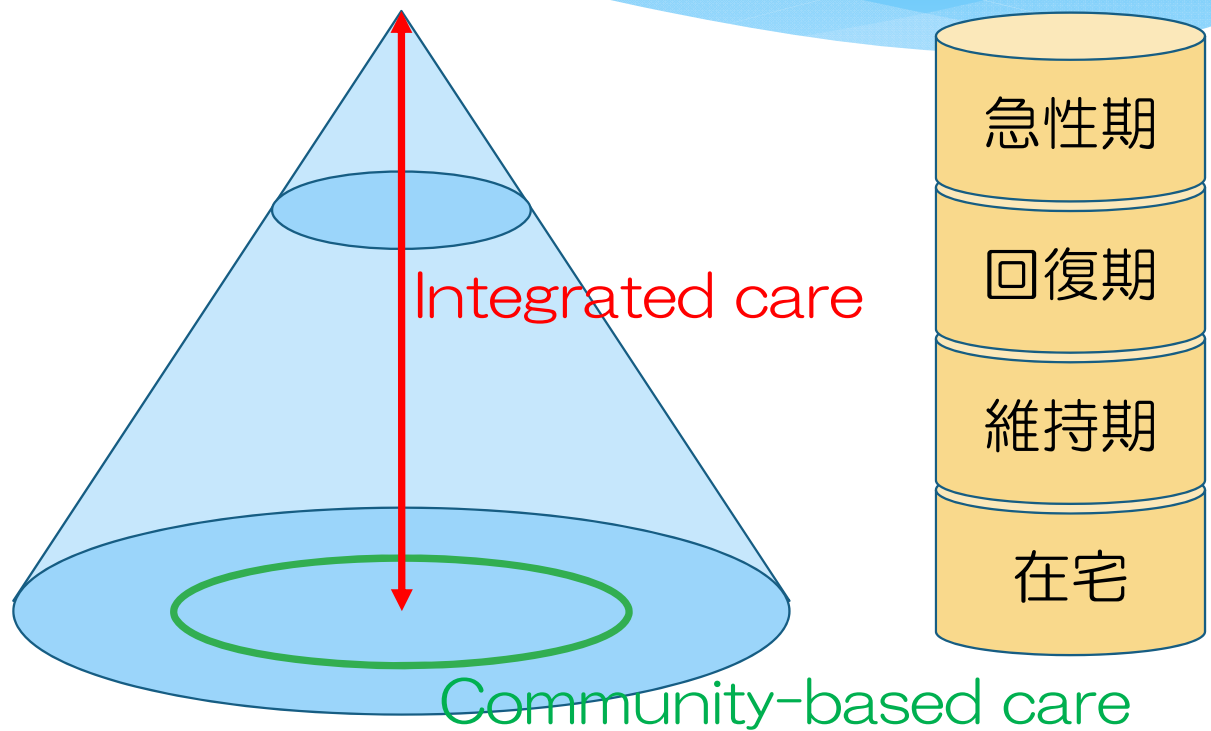




地域包括ケアというよりも・・

地域まるごとケア

地域まるごとケアのイメージ







診療所の外で・・・



平成21年



月	火	水	木	金	土
			1	2	3
5	6	7	8	9	10
12	13	14	15	16	17
19	20	21	22	23	24
26	27	28	29	30	31

月	火	水	木	金	土
2	3	4	5	6	7
9	10	11	12	13	14
16	17	18	19	20	21
23	24	25	26	27	28

月	火	水	木	金	土
2	3	4	5	6	7
9	10	11	12	13	14
16	17	18	19	20	21
23	24	25	26	27	28
30	31				

月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4
6	7	8	9	10	11
13	14	15	16	17	18
20	21	22	23	24	25
27	28	29	30		

はなとせんせいにもひょうき

かけがえのない思い出ありがとう



「いのち」の授業





本のよみかたり





地域まるごとケアのできること

今の子ども達は、身近な「人の死」ばかりか、「老・病・死」を経験することが少ない。

在宅医療は、高齢者が「生きる」ことを若い人たちに伝える絶好の機会。



地域まるごとケアが目指すもの

30年、60年後になっても安心して生活できる地域づくりをしていきたい。

次の世代に伝えていかなければならないことがある。

人はなぜ死ぬのだろうか？

人は、生まれるから死ぬのです

病気や障がい、認知症、老い、
あるいは貧困や争いごとで
死ぬではありません

しかし、それらのせいで
生きづらさを感じている人々が
あまりにも多い

全ての人が、安心して
人生を全うできますように

全ての人が、住み慣れた地域で
安心して暮らし続けられますように

地域で安心して暮らすこと

わけて、あつめて、しばる

から

まぜて、ちらして、つなぐ

地域で安心して暮らすこと

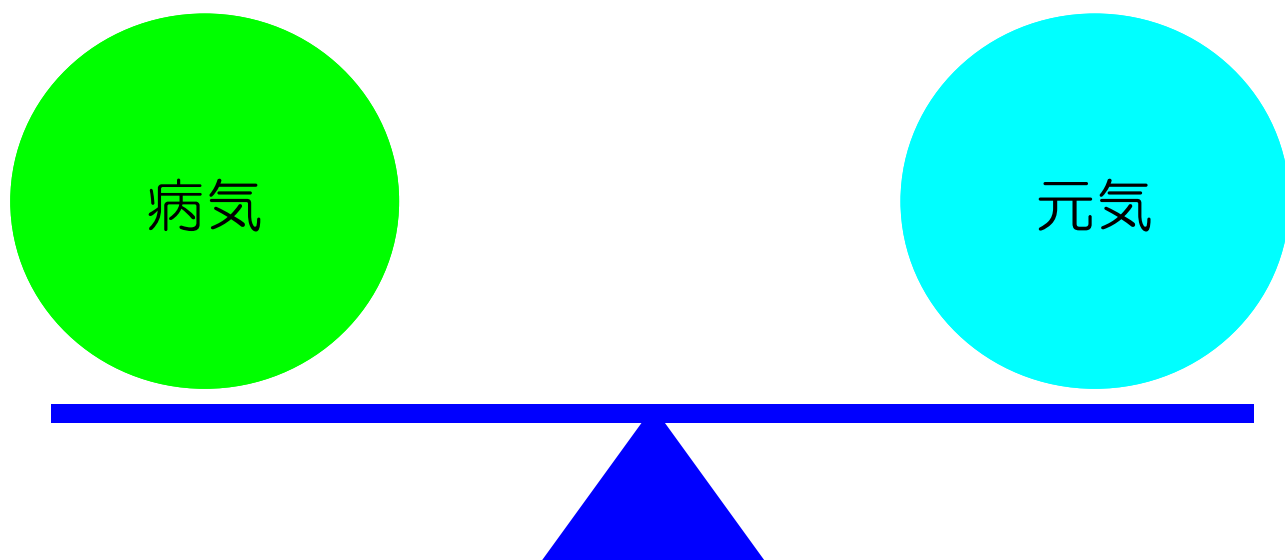
支援 から 共生 へ

地域医療とは

地域で「医療を行う」というだけでなく、
医療をとおしての「地域づくり」
だと考えています。

「健康」だって感じるのは、
どんな時ですか？

はよう、まいらしてほしいわ

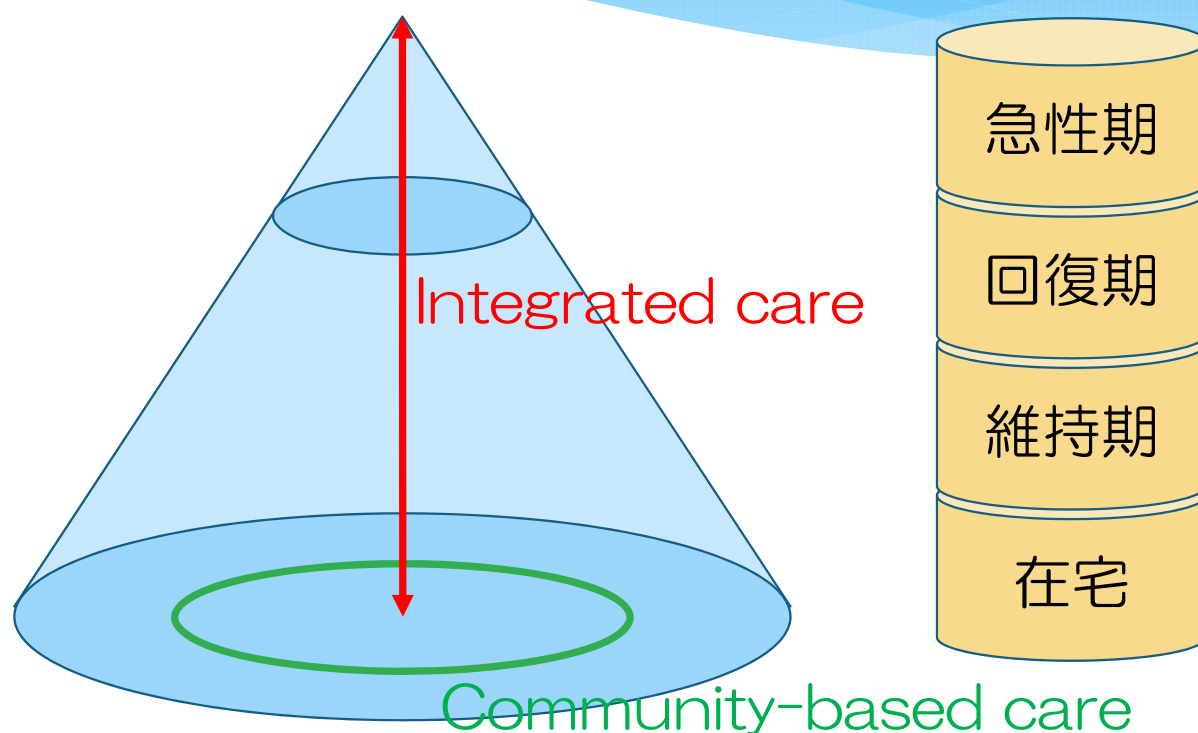


「年老いても、自分らしく過ごしたい」

「病」や「老い」に抗うよりも
それらと共に生きることが
大切なかもしれない



地域まるごとケアのイメージ



年老いても、認知症になっても
障がいを抱えていても
安心して生活が継続できる
地域コミュニティが必要

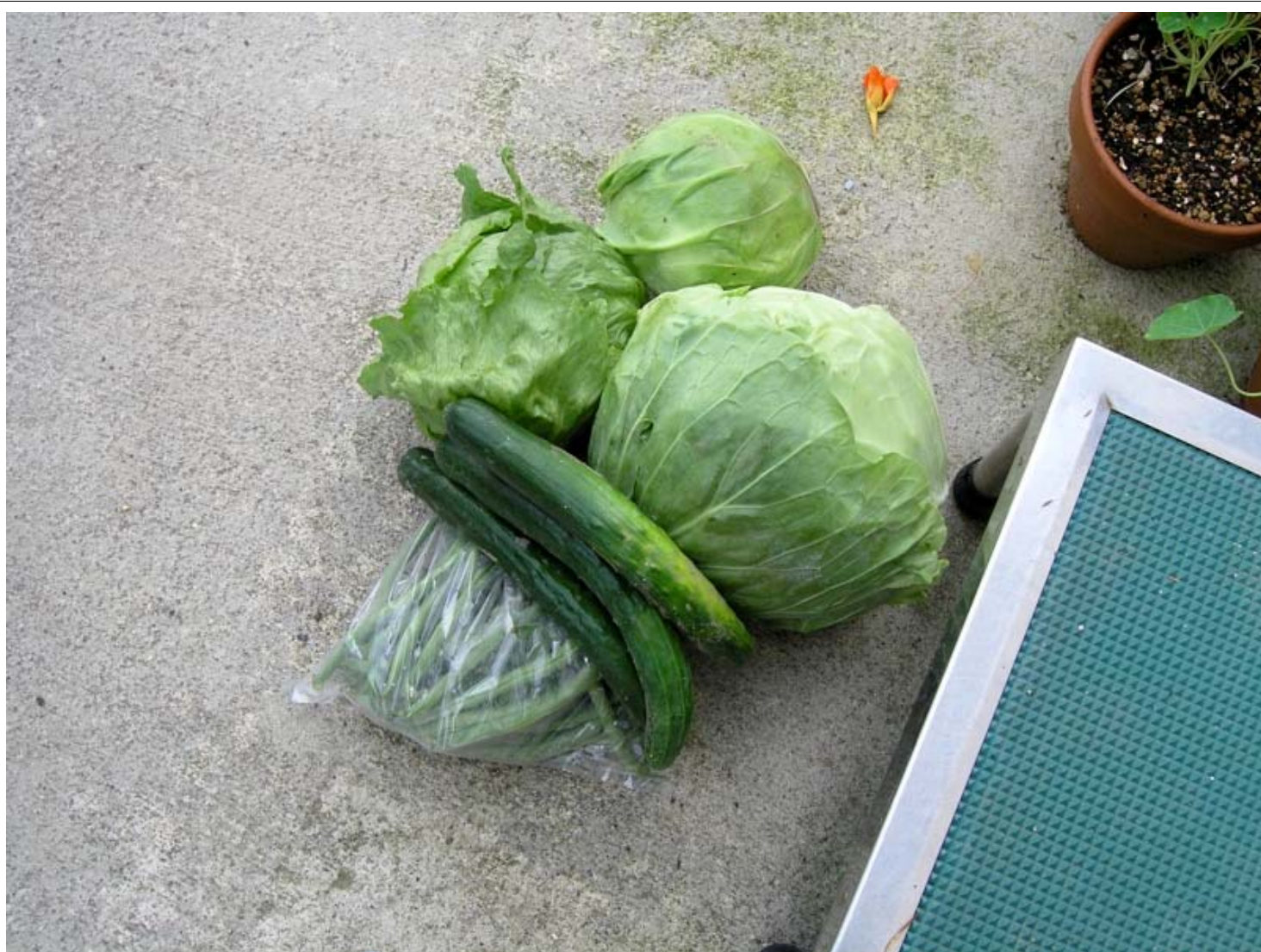
永源寺の
地域まるごとケア

花戸貴司 ◆文
國森康弘 ◆写真



成文協

ご飯が食べられなくなったら
どうしますか？



「花戸先生のご専門は何ですか？」
と聞かれたら。。

- 🔊 小児科？
- 🔊 内科？
- 🔊 在宅医療？

「永源寺です」